支え合い上手な地域づくり
（生活支援体制整備事業）

超高齢社会になり、身体機能や認知機能が低下し、買い物やゴミ出しなどの日常生活で困りごとを抱え、支援を必要とする高齢者が増えています。介護が必要になった時は介護保険サービス等も利用できますが、ちょっとしたご近所の気遣いやお手伝いで解決することもあります。

「地域の力」の源である「互助」をサポートしつつ、「自助・互助・共助・公助」をつなぎ合わせていく取組が重要です。

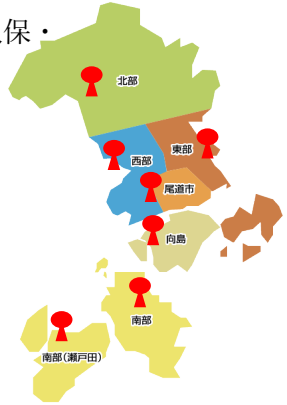
介護予防サービス等の利用で身体機能等の維持・向上を目指す

専門職だけでなく、地域の支え合いで、高齢者の社会参加・生活支援をする

高齢者が、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域にある多様な活動主体が連携・協力して、高齢者へさりげない見守りや声かけ、集いの場の展開をする中で、「お互いさまの関係」「支え合いの地域」づくり等を目指す『生活支援体制整備事業』が、全国各地で展開されています。

尾道市では、地域包括支援センターがある日常生活圏域の７地域に、第2層『生活支援コーディネーター』を配置し、話し合いの場である「協議体」の設置を進めています。

（1層協議体はH31.2設置。2層協議体は、現在、因島・向島・御調・美木原・瀬戸田・久保・栗原久山田・浦崎・栗北の9か所で設置。）



『協議体』とは

地域の生活課題や、助け合いや支え合いの仕組みづくり等を話し合う場で、地域ﾈｯﾄﾜｰｸの中核になるものです。

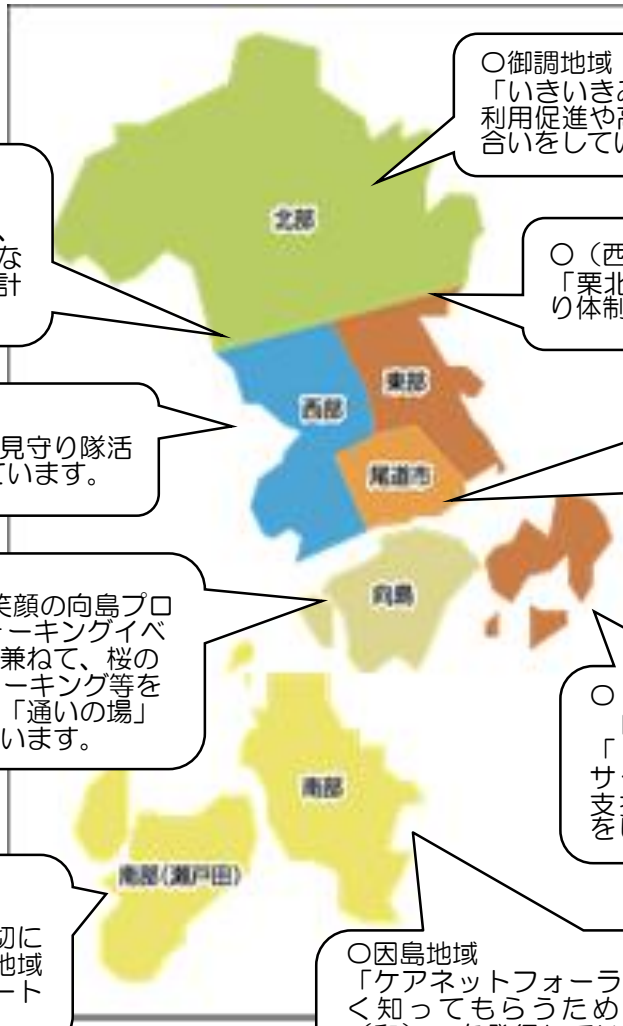
１層 協議体：市の全域
２層 協議体：日常生活圏域

『生活支援コーディネーター(支え合い推進員)』とは

地域の生活支援や高齢者の社会参加等の促進につながる仕組みを構築する推進役（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ役）。
地域ニーズと資源（＊地域のお宝・支え合い）を確認し、地域の生活課題を共有。課題の解決とﾈｯﾄﾜｰｸづくりを地域と一緒に考えながら進めます。

支え合い上手な地域づくり（生活支援体制整備事業）

各地域の活動紹介



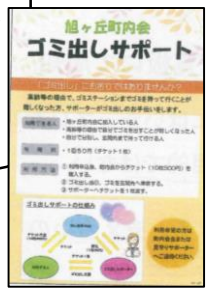
○御調地域
「いきいきみつぎの会」では、地域交通の利用促進や高齢者活動などについて、話し合いをしています。

○美木中地域（三成<一部>・木頃・木ノ庄西・木ノ庄東・原田）
「住み良くする会 みきはら」では、住民アンケートをもとに、連携しながら地域づくりを進めていこうと計画しています。

○（西部・北部）栗北地区
「栗北あつまろーかい」では、地域づくり・見守り体制について、話し合いを開始しました。

○（西部）栗原・久山田地区
「あんしん 栗原・久山田」では、見守り隊活動の拡充について、話し合いをしています。

○（中央）久保地区
「支合せコネくぼ」では、研修会のグループワーク等で、わが町の良さを再確認しています。見守り活動や一部地区でゴミ出しボランティアの仕組みができました。



○向島地域
「おむすびの会」～ ぬくもりあふれる笑顔の向島プロジェクト ～ では、夕日を見る小さなウォーキングイベントや津波の避難訓練を兼ねて、桜の時期に小高い丘へのウォーキング等ををを開催。フレイル予防や「通いの場」について話し合いをしています。

○（東部）浦崎地域
日常生活における「ちょこっと応援サービス」や、移動支援の仕組みづくりをしています。

○瀬戸田地域
「せとだでくらそう会」では、「笑顔あふれ、つながりを大切にするまち瀬戸田」を目指し、地域に住む高齢者の方へのアンケートを実施しました。

○因島地域
「ケアネットフォーラム因島」では、活動を広く知ってもらうため、広報紙「こんにち輪（和）」を発行しています。先進地の事例を学ぶ講演会も開催しています。R5年度には「因島版 ねこのて手帳」を作成、R6年度は、認知症をテーマに話し合いをします。